

第367回放送番組審議会

1 日 時 2016年7月19日(火)16時～17時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 吉川知恵子委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、五大路子委員
tvk;中村社長、押川取締役、熊谷コンテンツ局長、伊藤プロデューサー、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①7月のタイムテーブル

②7～8月の特番一覧表

(2)視聴合評

川崎市広報番組「LOVEかわさき」

2016年7月9日(土)午前9時～9時15分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年6月20日(月)～2016年7月15日(金)

・第366回(6月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年7月5日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年8月9日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長 それでは、定刻になりましたので。五大先生はいらっしゃる予定ですが、遅れていらっしゃるようですので、山田先生お願いします。

山田委員長 それでは、始めさせていただきます。西日本と東海地方の梅雨が昨日開けたということで言われております。関東地方も近いうちというふうに噂されていますけれども、恐らく今日これであがったんじゃないかなと思うんですが。それは私の勝手なあれですが。というのも、これまでのような肌まつわりつくようなネトツとした風ではなく、今日はかなり乾いた風でさわやかさもありますので、恐らく今日はあがったかなと勝手に考えております。それにしても、今年もまた暑い夏になりそうですが、皆さん健康に気を付けて夏を乗り切ってくださいと思います。それでは367回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長 はい。どうも本日お忙しいところ、またお暑い中をありがとうございます。前回は6月21日の開催だったと思うんですが、そのすぐ後に参院選の公示があって、7月10日に選挙ということで。その前にイギリスのEU離脱みたいなことがあって、そういう中で、もうちょっと18歳の若い人たちの関心も、選挙というものにもう少し向くかなと。だいぶうちのニュースもそうですし、他局でもいろんなインタビューをやったりして、結構関心が高い子もいれば、3分の2と言われて、何が何だかわからない子もいっぱいいたり。そうした中で、ただやはり若い18歳19歳の投票率は40%台だったものですから。全体に比べると低いようなことが出たかと思えます。そういう意味では、我々メディアももうちょっとアピールが薄かったかなと。それなりにはやったつもりなんですけど、そんなことを反省しつつ、選挙結果を私どもも夜中の1時15分まで開票速報をして。私どものやった番組としては、若い人たちに来てもらって、それぞれのいろんな専門家に授業スタイルみたいなことで、「この問題ってこういうことなんだよ」

というような解説を、やらせていただくような開票速報をしました。これを契機に、今度は都知事選もあるわけですし。これは神奈川の子どもたちには関係ありませんが、そうした中で、より若い人の政治への関心が高まればいいなどいうことを思った、このちょうど1か月間です。今日は視聴合評で、川崎市の広報番組をやっていただくわけですが、そうしたいろんな行政の広報番組をやっている立場からも、そこら辺のところを強く感じたこの1ヶ月です。そういう感想をお話しさせていただいて、ご挨拶に替えさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず、放送番組について。お手元の7月のタイムテーブル、7月から8月にかけての特番一覧表を参照していただきながら、事務局の方からお願いいたします。

玉村編成部長

はい。お手元の7月番組表と、表裏になっております特別番組一覧表をご覧ください。まずタイムテーブルですが、私どもの高校野球中継神奈川県大会の中継、およびニュースのお知らせを反映させた内容になっています。表が高校野球、昨年の様様です。中面には山型表を折って入れております。裏面にも高校野球のDVD発売予定を入れてあります。戻りまして中面の最初のページでは、今中村が申し上げました、参院選の開票特番のご案内。それからレギュラー番組の「神奈川ビジネス Up To Date」のご案内、それから日曜日の夜に放映しています映画ラインナップのご案内でございます。それから、めくっていただきましたこちらの方に、特別番組一部のご案内と、Jリーグの各3チームの応援番組を、改めて掲載しております。7月の番組表につきましては、いわゆる放送業界でいうところの1クール毎、3か月毎で一部番組が改編になってまいりますので、いくつかの新しい番組がございます。夜の番

組のアニメの番組ですとか、私どもで制作はしていませんが、広告代理店等から持ち込まれてくる番組など、いくつかの番組が新しく開始になっています。こちらに書いてはございませんが、朝放送しています、朝8時の「ハピネスチャージプリキュア！」というアニメの番組が予定の本数を終了しまして、現在はウルトラマンシリーズの新しいもの。新しいものといっても数年前の「ウルトラマンギンガ S」というシリーズに代わっております。これが終わり次第8月からは「ウルトラマンX」という、これも2010年代の作品になりますが、日曜の夜 22 時半の、これは初代の「ウルトラマン」ですが、こちらの番組と併せまして、ウルトラマンシリーズ生誕50年ということで、他の局でもいろいろやっていますが、私どもも円谷プロさんのお付き合いを含めて、こういった編成をやらせていただいております。以上が番組表でございます。それから特別番組一覧の方で、前回ご説明した部分と一部重複になりますけれども、7月は参院選の政見放送。それから10日に放送しました開票速報特番。25時までの予定でしたが、15分の延長をいたしました。それから7月10日から始まりました、高校野球の神奈川県大会。この開幕戦が10日。以降、中継をご覧のとおり予定しています。一部既に終了している部分につきましては、たとえば7月12日につきましては、6時までの予定でしたが、6時から6時32分までは、SV2 という第2チャンネルでの放送をいたしました。あるいは7月15日につきましては、予備日だったんですが、前日引き分け再試合になりました試合を、急遽編成して行った。にもかかわらず1回表でノーゲームになってしまったというゲームだったのですが、そういった編成がございました。以下、高校野球の中継の予定です。めくっていただきまして、高校野球中継、それからプロ野球中継。そして今年、リオオリンピックが8月の6日に開幕しまして、わが社も1試合、フジテレビ制作のものを受けまして放送するのが、14日です。陸

上競技の中継を私どもで選択をしました。大きくは以上です。高校野球ニュース、都市対抗野球ダイジェストが現在放送されていまして、そちらのご案内も併せましてご覧ください。以上でございます。

山田委員長 はい、ありがとうございました。事務局から7月から8月にかけての番組について説明がありましたが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。ウイークデーの2時49分からですか、「鬼平犯科帳」をやっていますね。私大好きなんです。ファンの一人で。本当に当時の江戸の食事のこととか、武士社会のいろいろな様子がわかって、この番組はとても好きなんですけど。tvkもやるようになって。ただ、この時間帯にしたというのは、何か理由があるんですか。

中村社長 基本的には、こういっては失礼かもしれないんですが、高齢の方の在宅率が高いんだらうな、というあたりを狙ってという。

山田委員長 その現実的な数字は上がられていますか。

中村社長 私どもの調査というよりは、NHKなんかをやっているらっしゃる、全体の動態調査みたいな中でいうと、やはりこの辺のところかそういうのがついて出ていると出ている。

山田委員長 今、別の民放のBSで、7時からやっていますよね。ときどき3時間スペシャルをやっていますけど。そうか、そういうわりあい高齢者を対象にということ。

中村社長 そうなのかなと。後はBSなんかだと、早朝にこういう時代劇をやったり。それぞれの局によって思いはそれぞれなんだろうと思います。

山田委員長 ほんとうにこれは面白いですけどね。他にございませんか。事務局からの7月8月の番組について。それでは、ないようでしたら、2番目の視聴合評の方に移りたいと思います。

土屋 「LOVEかわさき」でございますが、15分番組なので、フルでご覧いただく

と思っております。よろしく願いいたします。

視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。この川崎市の広報番組「LOVEかわさき」は、以前にもこの視聴合評で取り上げたことがあります。番組を制作担当されました伊藤さんの方から、改めて趣旨等をお願いします。

伊藤プロデューサー はい。番組を担当しております、制作の伊藤と申します。よろしく願いいたします。昨年も視聴合評に参加させていただいたんですが、昨年は有馬隼人、小林咲夏、Okapi、守永真彩という出演者だったんですが、4月から一新して、ちょっと目先を変えていこうということで、スタンスを変えさせていただきました。今まで、川崎市にゆかりのある文化人だとかタレントだとかを使っていたんですが、「川崎市をもっと知ろう」ということと、川崎に流入人口がかなり増えているので、そういった意味も含めまして、「素人の敦士と一緒に、川崎を知りましょう」みたいな。「川崎通を目指そう。初心者の僕と一緒にスタートです」というオープニングで、コメントを入れているんですが、新たな市民たちも、市外の人たちも含めてですけれども、川崎を知ってもらおうということで、リニューアルさせていただきました。実際に、敦士は「めっちゃイケ」とかでも出ておりますが、スタジオだけではなく、チャンスがあれば外へ出て、ロケも2〜3回ぐらいやっているんですが、今までと見せ方を少し変えていこうかなという形で、今回取り組ませていただきました。併せて、川崎市の福田市長も、「LOVEかわさき」の広報番組に、わりと、これから積極的に出てみたいということがあったので、ちょうどご出演のときがあったので、市長のご出演をご覧いただきました。というところで、今進めております。

山田委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆様からご意見などをいただきます。まずトップバッター、五大さんをお願いします。

五大委員 やはり意向のとおり、司会者が面白かったと思いますし、反対にその場所じゃない、違う視点から知ろうというのが伝わってきて、「あ、いいな」と思って。日本語もちゃんと伝わってきたし、「面白いな」と思いました。私自身はドラえもんは大好きなので、楽しくてウキウキしているんですけど。あれ、これ、地図とかは載ったんですかね？場所の、ドラえもんミュージアムの。

伊藤プロデューサー テロップで、場所を「どこどこ駅から何分」みたいな表記はしているんですが、はい。

五大委員 そうですね。ちなみに私、行ったことがないので、行ってみたいなと思ったんですが、「どこかな？」というのがあったので、そういうのが便利なものがあった方がいいのかなと。実際に現地に行く人と、現場でやる二人とのあれもとても良かったので、楽しくウキウキしながら見られたので、良かったかなと思います。

伊藤プロデューサー 恐れ入ります。ありがとうございます。

山田委員長 ありがとうございました。いろいろ質問なんかが出るかと思いますが、それは最後に、伊藤さんの方からお話いただければと思います。では続きまして、林さんお願いします。

林委員 前回も私、申し上げたんですけど、15分って1回分、短いんですよね。これはいろいろな都合があってできないんでしょう。福田さんも20分ぐらいで云々とおっしゃっていたので、長くできるんじゃないかな、と感じましたけども。せっかく福田さんがみえたので。彼は非常に慣れた雰囲気、他の副市長が出るより、はるかにいいと思うんですけど。もうちょっと上・下とか、2回ぐらいやってもいいのかなという気がします。これは前に言ったことと同じなので。せっかくみえたので、あそこはドラえもん・ミュージアムの他にも、民家園とか岡本太郎美術館とか、いろいろ固まっていますよね。その辺のことも併せて紹介して、

「藤子不二雄さんのところに来たついでに、そちらもまわったらどうですか」ということも、おっしゃっていただいた方が親切だったかなと思います。作り方は、特に注文はないんですが、リポーターも節度を持って、そんなにはしゃぎもしないし、さわやかな感じがして良かったんですが。敦士さんがあんまり「知らない、知らない」というのはちょっとどうかなと思って。「知らない」というよりも、「よく知るようになりました」ぐらいの言い方に替えた方がいいかなと。

伊藤プロデューサー そろそろシフトを変えていこうかなと思っています。4月から立ち上がったので。

林委員 そうですね。そんな感じがしました。そういうところでは。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして二宮さんお願いします。

二宮委員 昨年は川崎大師のお店か何かをやられて、私としては、15分という限られた時間の中で、非常によくまとまっているんじゃないかなと。ワンテーマを要領よく伝えるのは、15分ぐらいというのは、結構いい時間なのかなと。林さんは短いと言われていましたけど、そういう時間なのかなという感じがしました。何回か続けて見てみましたが、冒頭でメインテーマをアナウンスして、リポーターが報告するという形を取られていて、非常に単純ですけど、私は見やすいなと思って。決して行政目線じゃないなという感じも受けて、好印象を受けました。併せてMCの敦士さんは悪ふざけしていないし、私はわりと好きで、レポーターの須貝さんでしたっけ、あの方も私は非常に好きです。石原さんっていう方も結構いいです。いいスタッフを使っているんじゃないかと思えます。それでメインテーマは場所の紹介なんですけど、あの方は学芸員ですか？ 黒い服を着た。よくわからないんですが、ああいう方のインタビューを通じながら、施設全体を分かりやすく紹介しているなという感じもしました。次の「ゴジラ」も見たんですが、そのときも、ちょっとふくよかな女性が紹介されていましたけどあの方はあの方で、何かマニアックな紹介をされていて、それはそ

れでまたいいんじゃないかというふうにも思っています。今回の福田市長も、なかなかあの方はテレビ受けするんじゃないかな。嫌味もないし、笑顔もさわやかだし。結構自分を売るといふ面ではあの人はいいいんじゃないかなという気がしました。一つだけ質問なんですけど、藤子不二雄さんのアトリエですか？描いているところが出ましたが、本棚ってあんな上にあるんですけど、現実にあんな上に設計されていたんですか？

伊藤プロデューサー いや、あれは多分、1万冊を所蔵するというので、イメージで完璧にコピーをしているわけではないと思うんですけど、耐震性どうなのかなと見たんですけど、全部落ちないようにガードがあるんで、その辺は大丈夫かと思うんですけど、ちょっとデフォルメをしているのかもしれないですね。

二宮委員 「真実を伝えるんだ」みたいなことを、あそこで言われていたので。あんな風に蔵書を持っていて、どうやってとって。

伊藤プロデューサー あれは多分縦に表現したのであって、本当はもっと横にダースと。

二宮委員 そうですね。あそこは単純にちょっと疑問を持ちました。以上です。大変私は好印象を持ちました。

山田委員長 はい、ありがとうございました。続いて白石さんお願いいたします。

白石委員 市の広報なんですけど、市長が出ると、私は福田さんが良い悪いは関係なく、やはり浅く広くやろうとするから、あれもやりたいこれもやりたいってなるから、ちょっと2本入れるのはきついなと思いますね。もっと深く川崎のところをやるのがいいんじゃないかと思います。市長は全体に広げたいという気持ちがあるやっぱ。横浜市長もそうですが、首長が出るとそういう風に感じますね。もっと深く。どういうことかという、藤子さんの何かも、「非常に人気が高くて」と言いながら、人がいないんですよ、画面の中に。ですから、真実性がなくなっちゃう。本当は混んでいるのであれば、そういう中で収録して、生の、参加し

た人たちが。市長が言うのではなくて、集まっている人が。何人かいますけどね、パラパラなので、本当に藤子さんの。私は行ったことがないので、なかなか行きにくいんだ、登戸からバスで行って。私は戸塚ですからなかなか難しいんだ。だから、もっと深くやった方がいいのではないかと思いましたね。それから、バスケットとかサッカーとかバレーとか、ものすごく川崎って言うんですが、広げすぎちゃってどこのスポーツがどういう魅力があるのか、何で人気があるのかそれがわからないんですよ。「いっぱいありますよ」「みんな頑張ってますよ」が、わからないんです。伝わってこない。なぜ頑張っているのか。そこを深くやった方がいいかと思います。せっかく川崎はいいところだと思いますよ。冒頭言いましたように、浅く広くになってしまうので、できるだけ絞って、たった15分しかないので、「ああ、行ってみたいな」と、そういう番組にしていた方がいいんじゃないかと思いますね。福田さんは黒いネクタイでブルーの上下で、もうちょっと明るい、五大さんに教わって、いい衣装を着てもらった方がいいんじゃないかなと思いますね。そんなところです。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして伊藤さんお願いします。

伊藤委員

はい。土曜日の朝9時ということで、家族が「これから出かけよう」「まだ決まってるけど、どうしよう」、もしくは「来週どうしよう」ぐらいなきっかけで見るとも、とてもいい軽さと、明るさを兼ね備えた情報番組だと思いました。行政の番組としては意外だなと思うところがあって。お知らせとしての川崎市の何かは、ほぼなかったもので、こういったものは、皆さんホームページを見たりとか、そういう時代なのかと。割り切りがあるのかなと。そういう中で線引きをするという意味では、テレビ番組として、ある種の潔さを感じました。ただひよっとしたら行政とか、そういう情報に関しては、「川崎市のホームページをご覧ください」みたいな、そういう一枚がビシッとしてもいいのかなと思いました。最後の「川

崎市がお送りしました」という、サウンドロゴ的なアナウンスとテロップがペロリンと出るのが、ちょっと古いなと思いました。20年ぐらい前の印象があって。あれは静止画像でも構わないので、見た自然な印象ですけど、番組の延長として、登場するキャスターさんとかが、ちゃんと声の力を持って「川崎市がお送りしました」みたいに言い切ると、番組の一部になりうるのではと。それが「川崎市の番組でしたよ」と、締めしてくれるので、いいのではと、勝手な感想を持ちました。あと、皆さんおっしゃったとおり、市長さんが非常に好感度が高かったのも、藤子不二雄の後にやっちゃったのが、ちょっと惜しかったなと思いました。あれはやはり、どうしても好きな人が多いドラえもんの作者ということでは、見どころもたくさんあったので、この場では言わなくても十分なぐらいなんですけれども、せっかくのユニフォームをバーツと飾って、グラフィックとかも決して全然悪くないんですが、その半分ぐらいが登場の人たちに隠れてたりとか、それを密度濃く画面いっぱい映して、名前を力強くショーアップして読み上げるとか、テロップを入れて何種類のスポーツ、「いくつものチームが頑張っています」みたいな、印象的な短いながらも、締め方はあったのかなというふうに思いました。そういうところでは多分、敦士さんの出番だったのかなと思います。あっという間に14分弱ぐらいの内容は終わってしまったので、長く感じさせないという点においては、気持ちよく見られたと思います。

山田委員長

ありがとうございました。では、続きまして布施さんお願いします。

布施副委員長

広報番組はどうあるべきかという。今までの私のささやかな経験からも川崎市とか横浜市は、自分の広報をどうやっていくか、というそこら辺を全然わかっていないと思う。だから、どういうふうに広報をしていけばいいのかという戦略と哲学は、これは作る方というかテレビ局が持つべきで。「だから、こうなんですよ」と。見ると、たとえば川崎の広報番組を見ると、市役所の人たちが「あ、

そうなの？」と、自分たちがびっくりするような、というぐらいじゃないと、多分面白い広報番組はできないと思うんです。というのは、持っていないから自分たちで。すごい昔、どうしたら川崎を売り込むことができるかということで、川崎市はいろいろ考えて、私までにも話が来て、委員になったことがあるんですが、だけど、もうなっていないの。どうしていいかわからないんです。川崎市というのは、はっきり言えば、何もない町だったの。あの辺ずっと労働者の町で、いろんなところから来た人たちが、ただ働くために住んでいる。それからあとはずっと細長い、東京都まで細長くて、それも具体的にどう管理しているかわからないような、そういう町だったでしょう。そういう町を前提にして、「わが町」って考えたらどうなるんだろうって、もっと創造的に考えてイメージ作りをしていかなきゃならない。そのイメージ作りに基づいて、どう広報していくのかということ、ある程度は売り込んでいかないと。担当者に「どうするか？」と聞いても、私の経験で言えば、何も出て来ない。そういう戦略みたいなものが見えないから、市長さんが出て来ても、市長さんも何を言ったらいいのかわからない、全然。めったやたらにいろんなことを、ダジャレみたいなことを言っているけれども、本当の意味で自分が市長である川崎市ってというのは、こういう町なんだよ、面白い町でき、みんな見てよという、そういうのがにじみ出てこないんですね。そういう意味では、こういう番組を作るときに心構えが、tvkは駄目じゃないかと、率直に思いました。もう一つそれに関連して、藤子不二雄さんって川崎市とどう関係あるんですか。藤子不二雄さんって川崎市に住んでるの？

伊藤プロデューサー 後半の方に藤子・F・不二雄さんは生田に住んでいて、それでお亡くなりになってから奥様がまだ住んでいらっしゃる。

布施副委員長 藤子不二雄さんは富山県とか向こうの方の人でしょ。だから川崎市の広報番

組で藤子不二雄さんをバーッとだして行くのは、あまり意味ないと思う。ただドラえもんについては、展示とかいろんなことをしているからそれはいいんだけど、藤子不二雄さんは関係ないということで。どうやって藤子不二雄さんが作ったドラえもんという世界を、川崎市の中で売り出して行くのかということ。若干知恵がないと、もう一つ散漫になってしまって、見ている人が「藤子さんと川崎市って、どう関係あるの?」「俺たちの町と、どう関係あるの?」と疑問に思っちゃう。そういうことも含めて、「わが町川崎」って、こういう歴史があって、こういう面白いところがあって、こうして今発展しつつありますよ。本当にそうなんです。昔はなっていない町だったけど、今は。首都圏に近いというのは大きなメリットだから。横浜なんかと比べてもやる事なんか面白いことがいっぱいあるわけ。私は横浜市長さんなんか「川崎市はこういうことをやっているよ」「え、そうなの? 私たちは全然そういうことまでいっていないよ」と。川崎市は街づくりが前向きで、面白い方向に行っているわけね。そういうところをちょっとつかんでやって、戦略を立てれば川崎市民にとって、あるいは川崎市の行政にとって、「わが町をこれだけ宣伝してくれた。結構面白い町だな」と思うようになってくる。事実として、川崎は何もなかったところに、今や面白い。だから是非こういう番組を作るときは何をすべきかということを考えて、戦略をきちっと立ててやってもらいたい。その戦略を立てて行った広報番組の一つの枠組みの中で、市長さんが出て来て、市長さんの役割がワーッと出て来るということじゃないと、福田さんが見ているだけで、一つも。市長さんという感じじゃなくて、ただ芸能人のおじさんというふうには見えてこないというのが、一つの番組制作の上では、あまりズバリ言って成功しているとは言えないなというのが、私の意見です。

山田委員長

はい、ありがとうございます。伊藤さん、後でゆっくりと反論してください。

伊藤プロデューサー わかりました。えーっと。

山田委員長 いや、一番最後をお願いします。私も15分間楽しく拝見させていただきました。ただ、あの2つの柱で、1本ずつ番組ができたんじゃないかなという気がいたしました。これは先ほど伊藤さんもお話していましたが、せっかく市長さんが出て、後ろにいろいろなユニフォームが飾ってあるんだったら、まず川崎のスポーツから始めるべきだったかなという気がいたします。それで、その中にバスケットでもサッカーでもいいんですが、ちょっとした実写みたいなものをそれぞれ入れていったらいいかなと。それで後半に藤子・F・不二雄ミュージアム、それを入れたらミュージアムのインパクトが強いんじゃないかなという気がいたしました。それと、市長さんの簡単なプロフィールをテロップで流しとした方が、親しみが出たかなという気がしました。これも先ほど五大さんがお話していましたが、ミュージアムの紹介についてテロップで流していましたが、あれは地図か何かで「ここだよ」というのを押さえていた方が、良かったんじゃないかという気がいたします。それと、MCの女性の方がしょっちゅう下を見て、紙に目を通していましたが、やはりあれぐらいだったら、紙を見なくても話せるぐらいのことを、していただいた方がいいかなという感じがいたしました。川崎の広報番組ということであれば、恐らく題材は森羅万象たくさんあると思います。今回視聴合評をしたスポーツとミュージアム、先ほど話しましたように、これ1本ずつで番組が、立派なものができるんじゃないかなという気がしました。大体そんな感じです。あとは、皆さんの方で言い足りないこと、言い忘れたことがありましたらお話をさせていただければと思います。

林委員 いいですか、ちょっと話が出ましたけど。市長、バスケットをかなり熱心に売り出されてましたよね。バスケットの選手、どなたかを事前に取材して話をさせていれば、もうちょっとしまったのかなと。それにしても僕は、どうしても15

分じゃ、ちょっときついかないと思いますね。

伊藤プロデューサー そうですね、インタビュー入れちゃうと。

林委員 なおね、大変になっちゃいますからね。そういったところですよ。

山田委員長 他にご意見ございませんか。

布施副委員長 いいですか。

山田委員長 どうぞ。

布施副委員長 表裏だけじゃなくて、実は川崎って教育についてもとても成功している都市なんです。川崎にある県立高校でも私立の高校も含めて、非常に成功していて、それですごくレベルが高いの。だから川崎市から横浜市大なんかにもたくさん来ている。そういう点から見ても「ああ、成功してるな」と思うんですね。ただヘラヘラとした感じじゃなくて、結構行政が成功していると。そういうところが見られるので、そういうところも含めて。川崎って、昔だったら競輪だったけど、そんなものじゃなくて。野球もあったけど、野球は横浜に行っちゃった。野球は絶対川崎でやってくれても良かったよね。とにかく、総合的なエンタテインメント的なものだけじゃなくて、教育とか非常にしっかり成功している町だということを、意識してレポートしてあげると、市長さんでも川崎市民でも、もう一度プライドを取り戻すということになるじゃない。そうじゃないと、川崎市民ってどうか、川崎の悪いところは、私は良く知っているけど、何かあるといつでも横浜と比較するの。それで「横浜はこうやっているけど、川崎はこれしかできない」ってなっている。関係ない、そんなことは。独自にやっていたらいいことだ。横浜市の行政と比べてもやっていますので、その辺を掘り起こすと、結構面白い番組になって。そういう姿勢で番組を作っているっていうことが、市長さんがわかると、あの人一生懸命になっちゃうと、もっと違う感じのご挨拶とか、一つの場になったと思います。「誰なの?あの人」って。ヘラヘラって

なっちゃって。

山田委員長 確かに川崎は、プロ野球球団が横浜に来ましたけど、川崎トキコとかコロムビアとかそういう社会人野球の強いところもありましたし。それとあそこはアメリカンフットボールにもものすごく力が。今回は市長さんの口からは出なかったんですが、アメフトのメッカにしようじゃないかと。スポーツだけでももう1本も2本もできるんじゃないかと。そこに川崎のまさに広報的なものができるんじゃないかなと考えます。いろいろ意見が出ましたんですけど、質問はあまりなかったんですが、いろいろ反論したいことがたくさんあるかと思いますが。

布施副委員長 もう一つ、「音楽のまち」については、結局どうなったの。

伊藤プロデューサー 定期的にやっています。「音楽のまち・かわさき」。年間50何本あるので、1個に全部凝縮するのもあれですし、特化して放送していくこともあります。音楽に特集でガッツリやることもあります。

布施副委員長 川崎を音楽の町にしようと言いだめたときは、びっくりして「何を言ってるの」みたいな。だけどそれがどれだけ成功してきたのか、成功してこなかったのか。そういうことをちょっと知りたいみたいなことを思ったのね。

中村社長 布施先生、1年間50何回やっているんで、それを全部見ていただければ、そういう回も出て来るわけ。1回15分で全部はやれるわけないです。

伊藤プロデューサー 6月4日にミュージア川崎で特集をやっています。

中村社長 映像の特集も。

伊藤プロデューサー 「映像のまち」もやっていますし。「シン・ゴジラ」が公開されるという、次の週のやつは、「映像のまち・かわさき」の協力でご紹介をしているんですね。

伊藤委員 フロントアールの特集の回もありますよね。

伊藤プロデューサー そうですね、フロントアールもありますし。「LOVEかわさき」で富士通フロンティアをガッツリ特集したんですね。「イケメン」というテーマでやらせていただい

たんですけど、見逃し配信をやっている、そこで見逃し配信の数が7千何百っていう、今まであまりないぐらいの数が出たりとか。そういった数字も出ているので。やはり14分しかない、どうしてもつらい部分がありますので、毎週やる中で、どんどんそういう特性を特化して出そうと思っています。今回ご覧になっていただいたのは、皆さんに見ていただくのも含めて、ちょっと凝縮しようかなと思ったので、ちょっと一つにギュッとしてしまいました。そこら辺は僕らの考えが甘かったのかもしれませんが、で、林さんがおっしゃったように、民家園とか、岡本太郎美術館とかも、一言入れるだけでも違うというのは良くわかりますし。民家園特集というのも、1本でドーンと特集でやっていることもあるんですね。あと、皆さんのお話で、はい。布施さんの厳しいご意見は本当にもう、ちゃんと入れて制作の時も反映して、意識を付けていこうかなと思っています。教育の部分でも、教育に特化して、いろんな市民を出したりとかいうテーマでもご紹介することもいくつかあって、以前放送しておりますので、その辺も踏まえながら。制作自体の意識づくりといったようなものも、布施さんのご意見で改めて感じましたので、そうした意識をもう一度考え直して制作していこうと思います。

山田委員長 これは、リニューアルした時点から、川崎市の広報課とこのtvkサイドで会合を持って、で、「次のテーマは」というような感じで決めていくんですか。

伊藤プロデューサー そうですね。

山田委員長 川崎市の方から、「今回はこれをお願いします」というのではなくて、両方が。

伊藤プロデューサー 両方が出し合って。

山田委員長 アイデアを出し合って。なるほど、わかりました。他にございませんか。ないようでしたら、3番目のその他報告事項に移りたいと思います。まず視聴者対応の方からお願いいたします。

玉村編成部長

はい。視聴者対応についてです。6月20日から7月15日までのEメールと電話で寄せられた件数は以上のとおりでございます。問い合わせの内容の一部をこちらでご紹介しています。「あっぱれ！KANAGAWA」、これは大井町の方からのお話。それから「旬菜ナビ」につきましては、こちらのMCが4月に交代してまして、伊藤綾香という方に交代してありますが、その女性に対する応援等が54歳の方からいただきました。それから神奈川県番組に対するご意見。裏にいきまして「クルマでいこう！」に対するご意見。「LOVEかわさき」につきましては、今回の回をご覧になっていただいた方の、最後のプレゼントに対する応募です。「ベルマーレTV」に対するご意見。それから最後は、「音楽缶」という、いわゆるミュージックビデオを流している番組ですが、アイドルA. B. C-Zというアーティストのコメントがございました。「音楽缶」というのは、月～金の朝、それから月～金、土曜日の深夜、それから土日の夕方というふうに、わりとたくさん放送している番組なんですけど、いろんなアーティストのミュージックビデオが流れる番組として、時折こうしたご意見もいただきます。それぞれの番組等にいただいたメールの数字につきましては、グラフのとおりです。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。事務局から視聴者対応について説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ございますか。いただいた資料では「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」で、自分のふるさとの大井町に神社がある、大きな椎の木があるっていうんですが、こういうものって、意見が出て即、番組制作に結びつくというわけにはいかないと思いますけど、やはり制作サイドとしては、こういった意見も検討して、「じゃ、ちょっと番組作ってみようかな」という考えにも至るわけですか？

伊藤プロデューサー そうですね。皆さん、貴重な情報なので。視聴者の皆さんの情報なので、そ

れを反映できるように、日々努力はしておりますが、はい。

山田委員長 他にご意見、ご質問等は、よろしいですか。それでは、前回の番組審議会の模様をお願いいたします。

議 事 報 告

中村社長 リアクション、もうちょっと面白いことを言ってくれば。

山田委員長 ありがとうございます。これで今日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様から何か言い足りなかったことなどありますか。ないようでしたら。

玉村編成部長 はい。今お手元に「ガーデンネックレス横浜」のチラシがございます。伊藤先生からのご案内をお願いします。

伊藤委員 はい、すみません、お手元にチラシを配らせていただきました。「ガーデンネックレス横浜」、2017年の3月から6月冒頭まで行います。全国都市緑化フェアというものです。国土交通省と各都道府県の代表都市が毎年やっています、今年は愛知で開催されました。来年が横浜のということで、いよいよ1年を切りまして、横浜でこれが盛り上がっていきます。都市緑化ということで、主に花壇とか庭とかそういったものがメインのイベントです。私は、このメインキャラクターの「ガーデンベア」というものを作らせていただき、ロゴ作成とかのアートディレクションをさせていただきました。こちら、そうですね。裏の方ですが、「里山ガーデン」と「みなとガーデン」という2つ、メイン会場がダブルでありまして、こちらのみなとガーデンの方では、おなじみのみなとの風景。その中では、テレビ神奈川さんのバラクラとかも提携会場の主要な一か所として大きくスポットが当てられていくと思います。もちろんテレビ神奈川さんも、こういう進行・運営に大きくかかわって下さるというふうに伺っています。里山というのは、旭区のズーラシアの北の緑地が、手つかずのところを、相当広大なところを、このフェアのために整地しまして。ここは、一部自然保護

の方たちとも意見がぶつかる場所もあるんですが、もともと本物の原生林ではなかったというところもあって、一応慎重に進めつつも、そういう緑化のエリアを増やして、旭区であり横浜市のもう一つの観光や緑化の中心ということにしていきたいということで、伺っています。実際には心安らかにという意味での、花とか緑を愛でていくイベントですので、これから皆さんの目に触れていくことも多くなっていくと思いますので、是非ご参加いただければと思います。

中村社長 この「ガーデンベア」のデザインは伊藤先生がおやりになって。

伊藤委員 はい、やらせていただいています。

中村社長 この動画を、これから来年のこれに向けて作ってPRしていこうというように聞いておりますので。

伊藤委員 よろしくお願ひします。

山田委員長 どうもありがとうございました。他にございませんか。なかったら事務局の方から、連絡事項がありましたら。

玉村編成部長 本日はこの後、夏の恒例で懇親会のお席をご用意してございますので、5時半ごろになりましたらタクシーで迎えにまいりますので、中華街の方にお席を取りましたので、お越しくださいますようお願いいたします。それから次回のご案内ですが、こちらには9月20日火曜日午後2時からとあります。視聴合評の番組につきましては、特にこちらに書いてございませんが、例年と言いますか、何度かご覧いただいております「高校野球の壮行特番」。どこの高校が出るかはわかりませんが、それが8月6日土曜日、よる7時から30分間ですので、それをご覧いただいた上で、ご批判を賜れますようお願いいたします。もう一度申し上げますと、番組タイトルは「高校野球壮行特別番組、がんばれ何々」、そんな感じで日時は8月6日土曜日夜7時でございます。是非こちら

をご批評ください。改めてお知らせいたしますが、よろしくお願いいたします。

8月はお休みですのでお間違えのないようお願いいたします。以上です。

山田委員長

他にないようでしたら今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。